三島出身者の足跡と活躍 3

「グラウンドワーク三島ボランタリーニュース」No.37より

シリーズ 三島源人 No.5

沼津中学の頃

中川 和郎（なかがわ かずお）
GW三島副理事長

昭和十八年四月、私たちは沼津中学へ入学。学区制も共学もなかった頃、三島っ子にとって中学は沼津か韮山。この年三島から三十数名が沼中へ。沼中百年の歴史の中で、後年異彩を放つ連中がそろった中学最後、高校一回の四十四期生。

文化勲章に輝く大岡信、三共社長高藤鉄雄、アサヒ飲料社長佐野主税（以上三島出身）、ソニー社長大賀典雄、東京銀行副頭取から米国で一、二のチェアマンを勤めた山口保、雪印社長片山純男（故人）、清水建設副社長福田守弘、南極越冬隊長星合孝男、県医師会会長岡田幹夫、マキヤ社長矢部利治（故人）、同窓で戦後初の弁護士市来俊郎（故人）、明治大学学長山田雄一をはじめとする大学教授十数名、その他上場会社役員多数。思い返しても頼もしい同級生たち。更に、小笠原野生生物研究会理事長安井隆弥も朋友の一人だ。

山口保が「文芸春秋」の「同級生交歓」を依頼され長泉の井上文学館に集まったのも先の六名。同じグラビアをめくると上野高校の部に疎開生で同級の戸田建設の森田重人が掲載に。

中学二年生になると援農や植林作業に狩り出され、年が変わり二十年の初め、突然地区別にまとめられ軍需工場へと動員される。人生には予期せぬ別離があることを知った。男にとって財産は友人であり人脈だと思い始めたのもその頃だ。そして敗戦。歴史的な変転の中で人生の入り口に立たされ、凄まじい混乱を余儀なくされた私たちだった。その為だろう何かと口実を作っては、当時の仲間は集まりその絆をたしかめあっている。

三島市の「せせらぎ大使」の選考委員に加わって一度だけ出席。高藤、佐野に次いで、大岡と一級下の防衛医大学長間宮群二を選んだ時だ。隣りにいた委員に「大岡さんは三島とどういう関係なんですか？」と尋ねられたのは忘れられない。

―沼津中学での 先輩、同輩、後輩との様々な出会いは、私にしみじみと一期一会を教えてくれた、将に揺籃の庭そのものであった。

（敬称略）